

# 山行報告書

日時	2015年6月13日(土)		天候	曇り時々雨
山名	釈迦岳・御前岳			
CL	阿部(功)	参加者	吉田・林(陽)・林(俊) (総勢4名)	
(コース)	高速大宰府 I /C～八女I/C～国道442号線日向神ダム～その里溪流公園 御前岳登山口am10:00出発～(約1時間)～御前岳山頂am11:00着 御前岳山頂am11:10出発～(約50分)～釈迦岳山頂am11:50着 釈迦岳山頂pm12:30出発～(30分)～矢部越釈迦岳登山口pm1:00着 釈迦岳登山口～(林道、自然歩道で1時間10分)～御前岳登山口pm2時10分			
(コメント)	<p>久々の土曜日登山と雨模様で参加者4名しか参加者なくリーダー意気上がりせず。</p> <p>リーダー以外は晴れ女、晴れ男であるので、中間を採って神様は曇りにして呉れた様だ。</p> <p>八女インターを降りて黒木町、日向神ダムを經由して、その里駐車場から歩いて御前岳登山口まで向かうも2kmの標示が目に入り、林、車を取りに下る。この判断が後に大助かる結果となる。</p> <p>登山口から山頂を目指す。溪流沿いの急登にリーダー、吉田は快適に息も切れず。1年ぶりの登山となる林娘はきつそうであるが、リーダーの直ぐ後ろを付いて行くので、いつもはユックリしたペースなリーダーなのに今日は早いので林父は息があがる。</p> <p>御前岳に着いてから小雨が降りだす。あまりヤッケを着る事がなかったので手間が掛かる。山頂から釈迦岳までは緩やかな縦走路で自然林の中をルンルン気分で歩けた。秋には紅葉が美しいだろう。</p> <p>やがて釈迦岳ではないかと思われるピークが目前に現れる。右側がスパット切れた岩場である。確かに山頂直下は岩場の急登が続く。やがて、視界が開け、登ってきた御前岳が、そして、津江の山々が、青々とした山塊が霧雨に映え、神代の世界を思わせる様だ。</p> <p>山頂で食事をして、30分余りで登山口着く。これより、近道をするもアスファルト林道が長々と続き、これには閉口する。駐車場近くにある、その吊り橋は閉鎖され皆、がっかり。</p> <p>登る途中、目を付けていたタラの芽に吉田、早速、大きめの袋を手につけ、林が採っている処に駆け寄る。でも、美味しそうな芽の先端には手が届かないので、諦めて車に戻る林だが、諦め切れない吉田は、こん棒で引き寄せていた。遠くから3人はその様を見つめていた。</p> <p>今回のルートは紅葉の時期や積雪期に来て楽しめる、そして福岡県で一番高い山に満足した</p>			
費用概算	2000円/人(高速、燃料費) + 温泉入湯200円			

(2015.04.09改訂)

